



中村俊定文庫
文庫 18
297



正徳二年歲旦



聖節

とさ日のうら

紀逸

あまのうら

紀雙

橘のうら

碓月



喜二

あふ〜家作勢乃
喜や〜り曆

碓月

う〜己亥 ぬ〜ん
娘子ら合さる

紀逸

之番〜事〜れ〜
ま〜ぬ〜ん〜ん〜

紀雙

喜三

去〜年〜乃〜口〜を
ひ〜く〜也〜福〜多〜き〜

紀雙

去〜年〜の〜く〜を
去〜乃〜人〜と〜多〜

碓月

去〜年〜に〜も〜う〜け〜部〜を
去〜向〜よ〜来〜年〜の〜時〜

紀逸

常盤木のうらみさるるを山日あり

扇下

むめうえうと水色二十人

紀裾

重なるもやう年ふ夏又うら

橋下

ささきふまこころうら 硯うら

橋下

平あそびと海むも舟より

紀山

夕か来と湯谷ハ南をえつて

紀幸

あの手もとさひとあうら はつ日の出

紀幸

野乃目を流さ 控

逸挿

おりしや挿も田うら耕し

紀影

小敷乃むめうらひけ花の春

紀影

らふ九あそびと 夢のと

逸吾

あそびも挿あそびと ぬぬき

紀歡

あそびはあそびや 挿しやうら

紀歡

湯あそびとあそびと 挿の本

時此

あそびの挿しと 挿しとあそび

狼才

人先うらやうらハ 挿しとあそび

狼才

ゆりあそびとあそびと 挿しとあそび

紀堤

春あそびとあそびと 挿しとあそび

紀木

起くの人のお白くさし日新
紀木

蕨もつりあし猿と百葉
紀翠

紙指し都うま猿のさし
紀南

大ゆやの産むき紅のきい
紀南

栞と榎き 垣のあし中
斜明

峰もまうんと猿の頬押て
逸蝨

管つとあそくねねの
逸蝨

男の口ろー 流き
逸丸

よの雪和歌ふ人筆の
紀且

着るくそ時空も白や花の
紀且

延草もさ年むの大小
敬之

通所いよの月もさし
紀輦

あし海の揚の世まやあしは深
紀輦

葉ゆふりささく
扇下

さきそむの犬跡よの
紀月

ひくもを待彼よりぬく
紀月

衣ぬあしむねの
橘下

敬書牌うささく
紀裙

まじりのいさよふいぬ日神

紀裾

はさみの事もすく廣

仙輦

まじりのいさよふいぬ日神

紀山

上麻周山改

うらうら鳥籠のめくや

紀山

まじりのいさよふいぬ日神

紀輦

まじりのいさよふいぬ日神

逸柄

あしうまふととのりえ日の昨

逸柄

長押へまじりのいさよふいぬ日神

紀且

まじりのいさよふいぬ日神

逸吾

まじりのいさよふいぬ日神

逸吾

端燭て踏ふ髪も新柳

逸蚕

河岸とちいさの春もまじりのいさよふいぬ日神

時丸

門建く巾のうしろや

時丸

櫓時計の延るはるの日

紀南

まじりのいさよふいぬ日神

敬之

正朔

うらうら人をまじりのいさよふいぬ日神

田社

強やすひもの籠乃神也

紀圓

橋北のいさよふいぬ日神

杜吾

伴瑞とつ子字ありはるる山 曆

杜谷

手代まうを乃妻又福るる

市火

大黒の取中又海るる妻はるる

吐綾

あそあ子の抱いと種くは那の妻

吐綾

叶ハ妻よりる取 青 虎

麴車

猫の急のほり 諸と新諸よと

浙江

きとらう子や杉又積ちて糸の門

浙江

ま川の葉かゆ妻あ細乃人

南栗

障ちらう妻相言の押振るる

茶外

とらよりの目めもこ日とら山 曆

茶外

つちゆふむすあ十田の福るる

青嶽

ふふる組ま取の捲ふよ葩美く

敬仲

神の哲妻度りけ 梅乃軍

敬仲

こきりー海のまへ長芽 搦

敬人

はほ娘の正月ハ袖 虎とあて

菅子

暗を産るるしりり十浦の妻

菅子

ちの川の口の 舟より百葉

洞什

お十軒 伴勢の一里又四のひふ

連尺

杉井のよき夜暮るるも山麓 冠子

陽く陽く 陽く 系乃 逸星

車牛 川多 ぬれくは 流螢

香久のよき夜も 流螢

歌や 連ふ 紀貞

むめさ 梅留

あつく 梅留

唐 冠子

那戸のよき夜も 故貞

荷徳改

山 冠子 故貞

我え 鳥雲

三つ 以唐

船より 以唐

年々も 流螢

印も 凡鳥

反北改

方 凡鳥

以 逸秋

松の 逸星

方藏乃くくぬ白やふ代のま

逸星

君さうふまあつた實物

居邑

あさる此首のまゆよるあて

紀貢

ハ師実賣のまこまらぬあけの春

紀貢

空筆くくくくくくくく

故貞

松本頃まゆ乃まらと持へるま

逸袂

善法をく梅もくくくくゆのゆ

逸袂

く果もまらまは梅ふくくく

以唐

ま城主はまは井原は仕まらく

居邑

ま酒まらぬくくくく要うま

居邑

あさあひ物の酒まらん

梅留

あさあひのまらぬまらぬのまらぬ

鳥雲

改正

田作乃日和まらぬまらぬのま

獅之

お生所をくくくくく

買秋

地南巨雄乃側をまらぬみ

里先

まよまらぬまらぬのまらぬ

里先

人まらぬまらぬまらぬ

梅紗

歌のまらぬまらぬまらぬ

長訂

山をわたりぬ時代の夢盤橋
きほくし段をくまは積ま
青のつと綴せうまはつゆ

道業乃中のおりやあまうはむ
買秋

角を浦りんかきのあう知
逆免

そゆみせえん乃まをうま
梅紗

そゆもやうき世界の口印ふ
梅紗
雑奏の桐すゆあるん
富章
山口をまらぬ魚あは隣あふ
教徹

佛築地と横手川てあやの長
教徹

留てゆつるる園撫の懐
獅三
不ハつゆむの聲の利もま
逸免

あまは清も松とまもや花のうね
浪花
逸免

綿帽ふくれも徒屋の紙つゆ
里先
富章

外ハ素重船と名産の葉か
富章

己午へ向へ吾紅弾とめ
長訃
けうらのまこととらけやのま
獅三

新書

くさやねむく乃くま州

許人

ひらやふかーあきねのく州

水語

鏡原美人もすらーぎさうまて

美人

岩戸より葉おけつくさ山の日さ

美人

うすまゝのまゝあゝさう紀原

許人

ほしほらうまゝあゝさう志こあ

水語

あゝゆ乃てまやふさう岩石のと

水語

大ーたるふ之乃あさうけ

美人

本陣のまゝかうねあゝさうあま

許人

え旦

名月のおろそびえおれ細日哉

子璉

き山川りねふまかき

紀卷

まゝもあゝの能乃まな

觀志

知事やねま掛つく

觀志

清と花り白ふり後善

紀準

泊ねあゝこの反は埃う

觀航

秋はほや甲いふ日のか

觀航

松而己の門井而己の門

子璉

長官歌を奇麗よ後

何声

柴和政

せりし如きと云は侍ハハ毎乃基
らんし白帯柄の或ふ代
響の舞う柳をとほきりけて
星稀 觀志

我人もえあしう是事法度外
所ハ二日しりく管の戸
押送置るう阿の地く赤を照く
星稀 觀 紀 陌

道さまや向合中乃清路島
福茶のまりし子ばあしを
地ま約こまよしかり日う阿の島
紀 陌 何 邑 紀 卷

え日そさくねの影のゆく日うね
こつうまきるまこく乃ま
ほ一太振又めつし繩まきく
紀 卷 星 稀 紀 準

口の恩乃指まきしちめ乃む
はくしの種をまきぬ古ま
酒易い息うらむ虹のまきまき
子 璉 紀 陌 紀 準

梅さくしる衣紋まきしと山のま
海苔しる糸をまきしと山
菊もやまきの綴まきまきて
金幣 許人 紀 逸

招
子年の壽あり

二子早中目一 志熙

こまぬくや幸 儲

美所ふけしうま

兼乃ししし味

紀逸

船の額ほりもる

不工たさし来こ

田社

謂草節

曰媚景

雛形乃あき帰 桃笠

を家や 清代の手

七種 ころりし

すま けこきま さま 紀逸

油 笠 一 栞を

うり けり へき へん 杜谷

南 風

大沼や露のぬぼ 乃あけの事 李冠

根も口辨よかき新巻を 紀 逸

粟は量なすけの早ーいさあー 許 人

雞 旦

さすはあゝあもさー梅のれね風譚

市のとほ我さ山まきの日 紀 逸

書 陽

明ぬれさあーろやほほ借桃水

尾もさすさあ板を新る 紀 逸

歳 朝

さしをや井筒又さあ 雞のま紀跡

まハ又あーい喜れぬふ 紀 逸

新巻よあーいぬれ

む久侍るさあさき

和文婦 家あーいさあ 真嶽

鏡よささハ餅もささー 紀 逸

踏河乃ほほりあつて

さあをむらさき

作あーいさあ 三松

帆ハさあを新巻の門を 紀 逸

三、え

玉乃香をよめく代名 雑奏梳^女琴之
芥も一西結ふも厚し
紀逸

ひさし〜く東海の小舟
舟を送りてこも〜
石有妙筆可〜
むう〜

我 勝母村のまはに江戸乃甚南菓
善し 暖帯を帆乃室船 紀逸

聖書

神楽川

うらめありきう〜の糸日うぬ菊和
錦の葉乃下もき水 紀逸

三朝

雲乳弁

み〜の糸うらのま〜
〜のげませ 雑の人め〜
惠風 紀逸

右中

〜くも 彩市門乃甚圭紗
人〜 我〜 豊姫 紀逸

市野大町

以の伊をま〜や代の甚、霖
波あり 海き〜 紀逸
淑気

い〜乃〜や 紀子叶 露計
也二 百 春の字 福の字 紀逸

其三

常好くハ唯賦うんとの朝 奉道

上下階を 花乃又く卯 紀逸

きつたのやま言 影を棄てて 紀同

あつたま右を棄て捨く
影を棄てて

万葉子と初うやのあま抱く卯 逸十

地のももをきく 雀乃未度 紀逸

子つけ 輕ハきや戸の咲り 其時西

本徳田

美水や初の勢を初 初年古洗

多代の招実乃ほくら心のま 合

唐羅の酒流るるま 合

履新

人毎の勢をきあ入り 園生

戸あちちるうふ 借りまらるる 女里橋

まゆ 長堂のをまゆや 哥扇

雑日

飛ち 年くりらんあ者乃春 路友

旭の勢とびて 婦ま小 雨考

知名のるよ うちを袖がて 紀豊

四年きくく未年 西紀
あつて 江音橋

そのたのひく 紅ちくや 明のま 楮林

ふり 町やとち山 舟 素龍

あそふのあふ 物人の花あや 夏村

正首

清曲流

むくし世やふる土城は葉よ紀日新夏村

雪いちちとて湯まの山馬 楮林

龍のふる内喜のふ城 素龍

上日

硯中舎

日よとてやのうら此雪の影女素龍

ちとてかたた意あゝの息 夏村

いけをと 時日の名よ 楮林

磬口梅

關宿組合連

葉のふる枝よまきうらひ矢の花 紀言

甲のまは梅又とよけ 壺外

葉よさや梅のふ葉も神の音 逸峯

貝爪の子つてやあ乃花 逸以

ふとのまよ乃葉情をりけ梅花吹 紀求

正相

梅あよ公平古美 惠亦う那 紀貫

ま川巻ふぬさののうとてまき

いさこあれた居のま城むらさき 淵水堂

経うえく世のちい路一葉初始 紀積

くくひ姫や凍ちねの門 今

難とや世もまをかりな可 今

素兄

香も連くと梅お垣ありむ矢乃花 紀潮

松のえみを垣うきま川梅の花 逸接
神うらりすまほよ梅のすつへ那 逸推
うくりあ母一石あ川うく梅の花 紀芸

孟 飯

まことあけををほりち男辰の基 逸車
泥亀の脊戸あうてあるらん日あき 紀行

木 蘭 嘉例

夕日さう旭を法より一毒乃ちか 紀積

清 友

關 宿

玉 春 むのうま白ふ袖ありうき乃ちま 東流
梅 階をくらも手り梅のさうりぶ 志久

全葉の中よまうさうき一梅の花 朝雨
同 咲く山と夜の花やむめのも那 楚烟
同 ききりてもあにやうしう毒の茶 可樂
同 白か梅や紅梅もやれた紅杉流廊 對鷗
同 りましまをほるうまき一神の素 帯河
同 法そのよ夕日の影やうめのもむ 水西
同 うすあうくめうの男口の空の梅の花 渭叟
同 法もはとのうきさうやむめのも茶 錦浪
同 むえうや清の館の若くも 文義
同 咲時も花ももほまや神の梅 鶉柳

春 孟

万歳百本の門子多はのうきあは 亭立

やまおとす也拍元の男をけりて業 三朝

凍白

境町連

梅 雪も碓ふと柳るや春の北畑 文樓

梅 むせつ香平しるも咲りりサ都の中 希涼

梅 青枝へるも少燈をほほ梅 喜雀

梅 けりし木根うつるもりり東の梅 阿誰

梅 糸乃通い路路 杜土

梅 白草花や香の男を春のぬ白ひま 宋雨

梅 色く母さふ心ふあり神の梅 三巳

梅 床根母大さ子朝や春の花 如山

梅 餅搗老者てりりや柳のむ 如水

梅 香乃ゆふ心物乃 龍や母あ乃とを 蕨堤

連きく柳るゆやむ色乃花 全柳浪

建宣

延首もほらちのえふのゆきふ 甚所如濤

この字平あふく 境乃了急 城内石徑

新苑圃

昔暮る来ううと世ありけり乃 登度

た川字や今う船ハ春もも度る 津雪

きんそ少めめとと回し和日式 其莖

免つし 張府のま城むく

駿河

むく龍乃候 都や不二のまう日新 釣洲

其水も英 保ハけん 春うきうと 全波犬

路乃好可子代とまのやろ如
能船は度紀らう庵んし海乃ま
上列言中 釣浦

神大昊

庭をも時し海をも門をり
和氷

旭のむくふまのふ海川代
雨榮

ふさあらしと細とひれよあらし
波星

舟の電を舟のふる
梅舟

けの的は町もを浦もうち交り
孤舟

かたのききも横よくそく
雞屋

肩う海乃清もも横よくそく
玉志

こころのふも海も横よくそく
梶葉

夏正

え日やとくははるの小を都 逸聲

葉のせふとまのふる水の玉 紀逸

更始

やまゆ子や岐ももやうもいふあを 不並

枕のうらうらぬ法代やま海の垂 玉斗

とまもくう海物記あふせて海をのま 一方

とくしとぬよからうぬい法や朝の梅 芦葉

え日と法人の影ハ 遠方う子 邑裏

あふ山や車もむすよ 路乃ま子 素連

枕もちうらう物ゆんらうし 絶 佳酷

子後まのま炎燃ふ 雑奏ハ 不調

ちよの杉今朝うらうら 玉のまね 瑄 岫

駿河

上列言中

判官舎

吉川

杉浦

孤舟林

吉

むすひ昆布おぼる餅乃餅うし
 椀煮りもあやうきあり花の長
 字ほろのたけいさるーあけの春
 うんほろも花を咲せくち他雑煮
 あけの戸やあそび留流代わかに餅
 山とろこ目よあそびあれたたのま
 六分伝のさきそりぬあげれは
 麻らふも書の手帳やあ乃春
 神神へ能いる海くさ川日哉
 大退乃笑魚もほしきまの長
 うんさきお七猫神の舟あそび
 こま本も人うけしをたのま

長圃
 鞍靜
 野染
 漸焚
 習答
 其時雨
 大鷲
 笙波
 寛里
 柳翁
 以貫
 冠士

風あけの年一もくろむのたね
 大さくやあめ屋よきくさ川のま
 ちくしむ梅ひくもあそび玉の春
 鏡餅 嵐 雲くさ先をほろこ
 あけそむれさきあそびくさ
 け川掛ひもくさあそびりりり日影
 遠あうれほも乃あやあけのま
 月の一也の一すきとあそび 柳
 ぬ梅乃赤色ほろん門もさ
 寄西葦そくつもあそび雑煮か
 かきくさあけもあそびくさのま
 樹くさあそびもくさあけのま

送保
 紀叟
 女 十京
 叟々
 鞍齊 牛阿
 柳近舎 葵子
 羽澤
 今 狢 裘
 梅 風
 又 啓
 千 町
 涼 波

探春之宴

春く乃賀章城あはれ先
平河又存と詠一哉
聖廟の神存り細形と
歌子や子年あはれあはれ
乃くはの長くさうせん
こゝろとあはれと仰あき
まうり

紀逸

きくこの春日あはれあはれ梅乃母

あはれあはれあはれあはれあはれ

水語

あはれあはれあはれあはれあはれ

金幣

伴松篁

花屋の懸きりすねをむ色乃花礎月

姑射仙

梅あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれ 紀逸

第一花

あはれあはれあはれあはれあはれ 金幣
あはれあはれあはれあはれあはれ 田社
あはれあはれあはれあはれあはれ 杜若
あはれあはれあはれあはれあはれ 水語

壽陽縣

神々のくくし多なる也 梅を人
あるは清や梅の美人乃むめのむ
手と打ハそのまゝ妻のあやむむ
心移も多を神の清國をすめの花
お梅や清よハおれたんを

額黄映

梅や首の髪乃 毛やまゝ色
ふはあまの御身ハむ先乃をな
焚餅又炭の入る以や梅のむ
んぬりやまゝ言婦ハあつちを
難は浮あふものりよ ぬあけうを

逸丸
紀堤
紀輦
逸蚕
長訂

速亭

紀旭

逸声

紀夕

逸免

上紙 恋

神徳のまゝハかほ秋葉の花
多きうのイむくまむは乃えな
まゝ山や梅もまゝ梅の人
庭の庭も糸ハからんのか
神の梅ありまゝつねおかたま

江南家

梅一掃この春 河のあまひま
ほちくと梅まぢく名神の庭
おつねハなまめすくも神乃妻
うしこま梅もくぬやあけのまぢ
まのぬらぬらまぢよ神の人あ
むすひぬらぬらまぢのつらや梅乃草

奥連

三入

帯江

し州

催種

奥山

寒泉

舞閣

里曉

東哥

聴蛙房

松栂意地極竹あうく栂の尻 花菱
 人も栂もさういふく 名神のま 炫町
 むめうやま組さま 神乃春 兔水
 栂思ふや人の錯を 南口 呼來
 手代紙少く中二町やむ免の尻 龜得
 ハもよう一列りひと神の妻 竹樓
 うしきまひつあなまあめ栂の尻 蘭阿
 あつを結を栂のさうさめとんまの尻 石上
 ひつひつ袖よさ免おや妻れ花 至暉
 栂やが部よんま 神の徳 不並
 神もさうまあや栂のひと尻 玉斗
 向を乃栂りうけし神の栂 一方

ほとけいひさめさうさうの栂のま 可貞

初歌ハ我さうさうく三十一あまめ
 ううあままよ 納めしとまたり

權延平士中原氏人
 素山洞御三

こはあまやめさう神のさう栂り
 ううをさうさうさうさうさう

南枝醒

運ばさうさうさうさう世のさう吾うを 銀糸
 南窓あけさうさう乃 破睡
 名水と水や紋もさう山日うけ 連志
 再お乃この見居やさうさう終聲中 見龍

玉葉明

庭多の息吹うき川せし乃む 敬之

暮るる〜散る箱よあ叶 紀逸

あけまたの形減ハまをいさすたて 水語

和漢雪

白くらの袖の雪をやんめのを柳 來松

とけりと結ハ柳をうり髪 紀逸

峰〜ハ渡乃え乃 袖ユあそ 竿雨

斜東好

作向の袖もあほあや葉のをむ 竹塙

空〜〜層ハすぬくら下 紀逸

焚桐〜田畑のまをあけけ 花山

天下衣

梅〜〜古くわ〜〜た〜〜た〜〜花山

絲更の子昔の笛を〜 紀逸

朝子ハ中庭あゆむハ 夜宮を〜 竹塙

媚春色

〜〜〜はほほと林を〜〜あのを 竿雨

十二洞あふき乃〜〜あ 紀逸

まの山を〜〜お子を〜〜あそ 三花

尔和善

梅〜〜や折奥ゆり記神〜〜花洲

〜〜〜と祝の中のを〜〜 紀逸

朝歌乃目よ〜〜内のを〜〜 來松

明飛葵

日まのそら空も暇なやせ先の世 三花

入帳下甲子あがの遠い世 紀逸

はるけくハちの世の象も又是へち 花洲

始一種

梅さくや極まき瓶のちりや 逸文

山麝蕙

蝶ふきかたの男もの地梅乃也 紀邦

とんぼとんべい葉ふりやちや 紀逸

竜精且

ふり海を朝鮮人乃 紫なり 忘静

更路くさき去帳よもる世 紀逸

載春葵

を柳くすみの力へちるきより 敬亭

歳起東

門の杉内やちひすのねをち 逸十

つらなる

和ふよと枝はしりくとちあふ 雨夕

くまへくく遊るちのねのま 紀逸

其二

旭をくちちとちる光るつら世 川舟

霞しも甲乃ちとちる身 紀逸

其三

ちとて 花とちちとちのちあふ 光車

はるけくちちあふ此 細海 紀逸

成五七

白無垢の志願一や栢の神の庭

李冠

増しゆく多喜の朝新 万母

きり代あけりそはもくやきて

素笠

画さ指しゆくあけひえる

紀風

誰踏みし登のら新形川の月

和川

何雨の流れのすし乃成る

逸亭

三人一と本杉へ手りぬり

世文

兜中おれぬの、輝と夕光

紀碩

うつろおれゆくをよとて良の物

蘭袖

こゝろ移移の美 峰うけ

花邑

輝竹の由くとるも十二月

紀逸

袖一そけ乃白あ 念船 李冠

暮らぬとみる後よ場うとれる

いと文

身くよ名とくる 花 中

素笠

菖蒲をばはえくくもと銭の形

世文

うけ流ありゆる橋のうらも

如川

招ちよ月のそゆ乃えきう銭

万母

あけ竹と藤のうけりあふ

紀文

月もよ平に高きをこれのうら

紀碩

親よぬぬ子よある 娘もも

花邑

新の悪色しゆのあき口のうら

紫袖

清水坂ハ事よ暇中付く

逸亭

嬉々たるやうな笑をゆるし思ふさあはく 素直

夏のえんつらぬ喜登人形 紀碩

抖くそぎのぬき 鏡板 和川

まきしらのゆつる煮餅の香 世文

下町の鈴子とえるこまの口万舟 紀伊

荒の小粒乃ちあやうきん 紀伊

お〜きやあはれは月のおち李冠

柿と目白乃ちあはれ不 紀逸

松を麻のさけすむ村あはれ 素直

江戸了知あはれあはれ 世文

吸ふ乃ちあはれあはれ 常袖

椽で餅と喰ふるの志を 花巻

ものぬ乃神にかき〜す杉と花 紀逸

鞆口の流を永き日の影 執筆

詠ま春和歌

もろくお〜あはれあはれあはれあはれ

はまあ〜くうすむあはれあはれ 紀逸

詠ま

あ〜あはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ せきん

合〜

か〜げあはれあはれあはれあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれあはれあはれ 俊直

和歌

あらしのふと雲津け乃 暮らうそらも
あらしのふと雲津け乃 暮らうそらも

鳥雲

帝大碑

美奈乃尾もさく紀日のそらあ哉

真傘

糸板高砂のまなまの岸

紀逸

鞠を柳よりえつゆろそら

珪羅

さきあうりるふふ石

野添

よらほきよ 帆ハ帆直 夕月夜 桃水

酒をるる午 埃を川あけ 川夕

葉の花とれど惚るも 換はあし 紀逸

あしあきうくがけのやんのも記 真傘

水賣のようそらとねらうら 流川夕

きり井のうちのまハ 流るの 桃水

さくくまのありま 経層 野添

あしあきうくがけのやんのも記 真傘

巡れのまね ぬもすはくそえ 揚 真傘

平乃きうらの 印と梓とあ 紀逸

あしあきうくがけのやんのも記 真傘

何らあけきることねのうら 川夕

待たし大五の通ふをけらう 挑水

うすもはまよりそらる代 野添

甫多 追加

井列産村

あけほのや 替のちるすゝん 釣瓶 橘 叟

まゝとーのちまだありりりか 貝餅 其 水

強有く 其とむく

まの 中や不二と 旭の あらうとら 志 水

ここの計ハゆまきあり湖江又
まらうありくこのまきぬの海路

山中菴

まろふ 報とやくと 吹きよる 破 傘

まろふもちやく 焼くやと 神の 風 季

まろふものふまーや まり乃 風 五

まろふくく ありを 読むや 海日の 習 之

まろふ 秋も ふとまの うちと 路の 夏 畦

西 並乃 かく 庵よ 神や あけの 春 丁 未

え 日よ 海む ぬら ちと ちと 錦 壽

元 日より ちと ちと 錦 筆

ちと ちと ちと ちと 錦 水

額英 追加並春典

まろふあけハ 梅よ ちと ちと 仙 景

梅く ちと ちと ちと 石 梁

山 崎ハ ちと ちと ちと 逆 郊

人 ちと ちと ちと 素 口

ちの ちと ちと 神乃 音 梨

守歳

福もや 善乃仕事乃 福も志熙

冬抄

世乃中冬矣 桃笠

残臘

福の女也 礎月

歳起

あけまはし	や餅	は	是乃	志の	あす	と														
あけ	まは	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と								
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							
あ	ま	は	し	や	餅	は	是	乃	志	の	あ	す	と							

盤谷

和推

存義

右佐

平砂

米仲

祇丞

買明

樸川

渭北

旨原

海蔵結子と紙おろしりり馬のれ
うらうら好いしきよ師老の跡乃者
あましくのおとくひこまやま惜と
かろふくたろやと一のあま
ゆりのまよめなうらちかとの身
大なるやまをらちかた佛
神の指貫りやなふうは横
権人やたけよりけお餅あしり
まなくひらうき家よす呼吸まぶ

拙原

まやく人乃中甘く馬と紙
魚乃世やまのおくある十二え
常仙
春來

うらやまは魚人の善な夜
郎ろましれまの塩糖
羊素
秋風

半果

芥のぬち師をの月口つりり
初くち初く鏡とけきま
新うぬさしや糖の大味也
石腸
珠來
木啓

大極

こまとの鬼やいあがり世の時
裁とのふと向くまきまう那
と一のうれ種あもちう紅舎人
大魚の味鳥やとのまきまら
中揚ハ手流ま—まきを紙
倍鳥
保長
古音
真筆
丹志

風の音あはれまき山 風ぬり
 ちよのちよふもまきつふさやう
 賞ゆきる扇のまきーやうーの音
 舞まきや粥ほのーとあけ物
 餅揚や度乃柳の 池ま目
 ちよのまきまきや鳴門のまきの
 ちよの里やーののーうりゆき
 一はちのの絶まきーまきの隅
 餅つまや清いまきのまきまきの
 一ひの 梅もまきーまきまきまきの
 大曲ハまき乃まきのまきーまき
 まよまきのまきまきのまきのまきの

風謡 一 致 雀童 一 羅 流窓 孤外 純祥 千色 蘭阿 素文 社嵐 曉雨

あくーまき 禪まきー 小端日
 世の師まき世の好ひく柳 詠亦
 本又餅の嘘と空やーの音
 隠れまきハ南さうけまきのまきの
 まきまきまきまきの餅やまきのまきの
 燈りまきまきまきまきのまきの
 まきまきまきまきのまきのまきの
 まきのまきまきまきのまきのまきの
 世の師まきのまきのまきのまきの
 梅ひまきのまきのまきのまきの
 まきまきまきまきのまきのまきの
 まきのまきまきまきのまきのまきの
 まきのまきまきまきのまきのまきの

峯遠 佳境 六味 諺我 魯依 圃牛 鯉巴 画秋 珪羅 亀音 楓江 杉風

梅咲て清き花の又も春暮
餅つきや人も柳よりの花
野ハ野まんぢや呼まの庭子お
七つ八つも庭をからけとりの豆
傾階乃と出まきくやきとすれ
惣とくくハも草中と呼ん多は草賣
おき井の門も梅の夕アノ柳
菫まうて園も餅まね 節まの
後の餅や急の早もまのとの
餅まねの器入り梅のあうり式
餅のまも餅一太おや一太
餅つきや餅 喰ままてと一太

起月 賀亭 兀子 冠子 柏庭 如小 袖光 長隆 出圃 野城 且朔

餅つきや酒のまてぬくまカ雄
お位酒めと梅ぬまや 古きや
梅咲や急の早のままね
よろ川中と井まもまや梅ま
桶餅ま 泡通の勢ま急の急
とりのまの急とあやま門の泡通
庭ま積ありとまお急の灯ま
とらまもと梅もまあもじか城
ま乃地まも餅ままのの市
餅まのままねくく海日ま
と梅くの福と春暮やとりの市
子育のままてくくく急ま

志静 白曉 菊圃 紀夕 曉里 亀辻 習呂 兵皓西 曹将 柏車 東河 沾鼻

吟物よよくとねぬあやなほ
初まの鐘りやわらわの柳を
帆よりけし舟よあまの原を
舟の言あふくゆる 小別式
ゆくまのあ代のちしなや神系
さるよまをたか 一えよく一の梅

さる言

香ける人も 你川 樹くの香 素立

よま末

舟の市路やけはは 樵くを
ゆへいおうし 一はくく人もま
野中一こまめ人よとたよれ 三夕

さる言の伝道とつまじき
了の背よま男うくやどりの市
鐘の鐘の鐘一早もまよりり
まのまのまのまのまのまのま
一とまのまのまのまのまのま
卯もまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのま
ちのまのまのまのまのまのま
塔の鐘の鐘の鐘の鐘の鐘の鐘
まのまのまのまのまのまのま
れ納 目よまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのま

路考 仙奥 笙波 里曉 炫相 柳菀 早川 竹坡 以貫 登度 振鷺 構秋

としほやえりうす門の礪削き
 古多のやつらうと事の一うしけ
 物の子母きや一母と一のらぬ
 う一人も和國のまをもちたり
 ちちその鶴と海やむめのを
 物と一又ゆしうけう水車
 二股の大根やまは海はつちら
 やくつあや首巾一はまことちあひ
 物火子屋をえせりうる大いぬり
 物きしち又と純子あもちあふ
 ちち声子あはれと一のひうりか
 ちちちちちちちちちちの所
 何橋 十波 湖蛤 紅豊 路友 古洗 訥子 良雨 逸其 冠士 鼠兼 雨夕 逸声 東桃 十圃 三嶽 奉陽 盛有 何江

ちもりすめと橋はやちんほ物
 ちちやまま山とと一さうた
 靴の順をとちち乃調子うゆ
 山色を少所う果のまをまう
 ちち人もちちと一のらぬ
 一年のちちちちち一の留
 ちちちやあつ海のちち妻乃花
 ちち水の粒ちちちちと一筆
 物と一や園のちちぬ一のち
 物と一人描もちち一のち
 物と一ち屋をえちちちち
 物と一ちの月額をちちち
 何橋 十波 湖蛤 紅豊 路友 古洗 訥子 良雨 逸其 冠士 鼠兼 雨夕 逸声 東桃 十圃 三嶽 奉陽 盛有 何江

共満改 李範 竹樺

培鞠あんとしをよし年の法や
 湖龍
 す掃や掃へ入まうらうり記者
 路長
 射と蛇大狐うちくして年九曾
 故一
 憂心然のるあく少帯より年の暮
 巴江
 一年の非をうらうり来ちをう
 相似
 嬉う記やまのう流鳥の暮所
 少長
 こころの香よきうきぬ原を梅
 雪杭
 きの葉のまうし人きうらぬ男
 紀旭
 ろれもくしの矢車情をうり
 雪子
 舞雪をうらうりそ糸よる人流るは形
 尺波
 きうらちのう酒をぬれや第一
 露計
 春うける市うらうり海乃 波う那
 文尺

商人の情 文尺やきしの書 富旭
 とりのきももやみたらの 暮うら 五雲
 冬人うのすめぬうちきうら 良柄
 舞やうらも白うきし 一衣 菊和
 人の名を急ふも 結る原を引 南葉
 鈴あうら 福葉の歌や 豆山椒 亀路
 初冬の陽みあうきし 菘柑子 大雉
 舞やや盛うら 一衣 糸やあき 玉調
 入船のやあうら 一衣の梅 杜光
 大くしと牡丹う 獅子あきし 錦之
 何とあひの梅よ 片うむ大梅日 花磔
 初文の書の名か ちやうのう 山思

三つ流やまき川志賀日花うほ
 竹阿
 折流やう流りちう紅土岬日
 串船
 字ハ唱うそまそ折るせのほし
 龜船
 信流者ゆりせくえく流流を引
 柏葉
 妻ハ子の之河素袍も一を裁
 三李
 ちややややく流乃 衣多きり
 琴之
 揚喜もま川うまき川の堰所
 洞踏
 三つひまきり流るる流や衣配り
 紀時
 流るる流や折川の葉の流るる
 神堂
 妻と少く流流のまきのまきり
 桐陰
 流るる流やぬりい流の流るる
 桃水

流の流や垢流流るる流の流
 逸雅
 流の流やぬりい流の流るる
 春湖
 流の流あう流一まきり流るる
 文外
 少流流とまきのまきり流るる
 翠波
 流るるまきり流るる流の柳るり
 壺簫
 流るる流あう入るまきり流るる
 儂杖
 うけ流とまきり流るる流るる
 吟松
 流るる流の流や流るる流るる
 其也
 流るる流の流の流の流るる流
 夾花
 流るる流の流の流の流るる流
 古硯
 流るる流人まきり流るる流
 宇雷
 三十九や花もまきり流るる流
 不並

早稲

早稲あまねく 穂下ららば 早稲の

紀速

おなま

ひとしやうららけいを 惜しむるの 中み

まんき

ま

鳥雲とらんらん ねむりも けいせん せん

鳥雲

歳末追加

抱膝 けいせん けいせん けいせん

紀玄

社中歳暮章

船 敬之
 舟 逸丸
 斜明
 紀翠
 紀雙
 紀堤
 仙輦
 扇下
 楯下

室七つをぬぐるほみや雪の市
そこ板やとりの屋上の布をを
ぬぐるやや乃つけゆる換りり
むく強しよねうまうり雪の市
の川きうとあく人あり大ゆ日
海漢の身いもあし一本の衣
雪の中よねよあもあり雪の雪
雪の雪雪雪雪雪雪雪雪雪雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

紀幸 紀影 紀歡 狼牙 紀木 紀南 連蚕 紀且 紀華 紀月 紀裙 紀山

え結とあけるよもあも師もは
孝の孝人をさうりよもあも
ちうつのはらと板こたのきよもあ

逸 栖 逸 昔 時 丸

淳音

雪の雪やうしうよ本のあもつう
紀解と雪れ結く雪の雪の雪
とりの雪五穀の花のひより雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪

田 社 杜 咎 吐 綾 浙 江 茶 外 敬 仲 萱 子 連 尺

香の目乃とくしんや日本の香
 香の市宮ふきのきエのきんた
 あつ子の毫ちりりりりの香
 こまらうの梓あつぬも味をい
 海らを餅つく家家のちんほり
 とりの更々味いり若あつ梓葉坂
 年の味くさて餅くちや塩うら不
 権とろく人や従軍のとりに賣
 親のろ塩くぬもあつ味をい
 更々ぬらうた世を味やぬ味の味
 紀圓
 席丈
 鞠車
 南栗
 青嶽
 敬人
 洞什
 里東
 香琴
 市寶

條翻

他人の目さるやひのり結つる
 鳥西云

りよふやうほもきとく一味もい
 幕ひきい梅もやうくくさるぬ
 はくきのきく一室もや年乃餅
 何しつたもあやまらぬのぬらも
 ひふよあつとく一やうぬぬ
 上陸よあつた野のく一美
 すくやうまのいさつとぬらぬ
 餅つきの鏡さくくうらぬらぬ
 ちけけのの輝まの石くぬらぬ
 津あへ梅も焼すぬらぬの園
 切くさぬの園も名も一香の市
 冠子
 流螢
 梅留
 故身
 以唐
 凡鳥
 逸星
 紀貢
 逸秋
 居邑

香蝶

之梅下鼻をよきうりし一更
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
世のせいのしめくくくくくく
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
細又の鼻をよきうりし一更

湘屏

市の女やあつたれまかつたま
やくくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
梅さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
子理
観志
観航

大悪をゆすく深あやぐまの市
ほ勢あをいさひさうくの鼻の市
まゝ人の袖ゆきし一の松
烏帽まゝく鏡るあやぬきの松
梅の鼻中くく下のさうくくハ蝶
何声
星稀
紀陌
紀卷
紀準

龍領

形を扇稲のちりくくや乃雪
金幣

風席

橋を袖あしめくくよま本まああ
さうくくハ蝶の名ゆや鼻乃下
井戸神乃今音あしめくくよま本まああ
水語
許人
せんさ

歳晚

一時を居るとおぬあやうの市・紀逸

大尾

あやう又遠きも下早てふの旨 湖十

延享五戊辰春

葵都吳門外市

吉田庚川
合本童 辨



